ぱれっと9

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと　2018 No.229

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、
それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月のワクワクビト

泉ヶ岳ふもと すずめ農園
鴇田(ときた) 美穂(みほ)さん(32)

田んぼで伝える命のつながり

鴇田さんは、仙台市泉区泉ヶ岳で実家の田んぼを「泉ヶ岳ふもと すずめ農園」と名付け、農薬・肥料を使わない自然栽培でお米作りに取り組んでいます。田んぼを通して食の大切さや命のつながりを感じてもらおうと、一般向けに田植えや稲刈り体験、生き物観察会などを開催。また、米食の魅力を伝えようと、玄米と糀の食生活講座など、食育活動にも力を注ぎます。

環境と農業に関心を持ったのは、子どもの頃、実家の田んぼに沢山いた蛍やトンボが姿を消したことでした。「故郷の豊かな自然を守り、健康と環境に優しいお米を作りたい」と、2012年、それまで勤めていた会社を辞め、すずめ農園を立ち上げました。

「人の手で作られた田んぼという環境で微生物や昆虫が育まれる。生き物たち本来の力を借りながら稲が育ち、実ったお米を人間が食すという、人と自然との命の循環を体感した」。稲を育てる過程を通して、人間も自然の一部であるという確かな実感を胸に、田んぼから命のつながりを伝えていきます。

取材・文　市民ライター　溝井 貴久

泉ヶ岳ふもと　すずめ農園

Facebook https://www.facebook.com/泉ヶ岳ふもと-すずめ農園-132468063576166/
Mail chunchun.okomeumai@gmail.com

農園の名前の由来は、お米が大好きな雀と、仙台を代表する伊達家家紋の「竹に雀」から。すずめ農園で採用する農法は、木村式自然栽培です。お米は宮城の地酒「乾坤一」にも使われ、お米の美味しさを競う国際大会「米・食味分析鑑定コンクール」に5年連続入賞、2017年には宮城県代表に選出されました。人間本来の自然治癒力を高めようと鍼灸師としても活動中。イベント開催情報はFacebook、お米の購入はメールから。

特集

里山再生プロジェクト

学校の森を手入れして

市民が楽しめる里山を取り戻す

インフォメーション

問い合せ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010／FAX 022-268-4042　Mail sendai@sapo-sen.jp

まち歩き

仙台ちょっとまち歩き　市民活動の現場を巡る

～聞く・見る・気づくのまち歩き　市民活動おじゃましまーす！～

◆まち歩きエリア：JR仙台駅東口エリア
日　時：2018年10月13日(土)10:00～12:00
集合場所：JR仙台駅　BiVi 仙台駅東口前(予定)
内　容：自分たちが住むまちを歩きながら地域のまちづくりに触れます。市民活動団体を訪問し、活動体験や活動者の話を通して交流する大人の社会見学です。訪問先など詳しくはホームページ、チラシでお知らせします。
参加費：無料
定　員：10名(要申込)

サポセンスタッフから

100人突破！あなたの地域に市民ライターが光を当てます。

市民ライター講座は、河北新報社の記者を講師に迎え、取材と執筆のノウハウを学ぶ連続講座です。2014年に始まり、今年5月で7回目の開催となりました。これまで参加した市民は111人。受講をきっかけに、仙台のローカルメディアに参加して地域のオモシロネタを発信したり、新聞に投書したりと、活動を広げる人もいます。また、これまで「ぱれっと」で市民活動を紹介する記事を執筆した人は述べ45人。ときには、実際に記事を読んだ人から感想が寄せられたり、取材先から感謝の言葉が届いたりすることもあり、自分の情報発信に確かな手応えを感じることもあるようです。「自分たちの住むまちを自分たちで良くしたい」と、自発的に活動する人たちや取り組みに光を当てる市民ライターの活動に、今後もご注目ください。(松村)
※受講生の書いた記事はサポセンブログで読むことができます。
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 9月12日(水)、26日(水)

開館時間	月曜日～土曜日　9:00-22:00
	日曜日・祝日　9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010　FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp　[Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/　[Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、
仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

発行	仙台市市民活動サポートセンター
発行日	2018年9月1日
編集	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン	PEACE Inc.
編集人	太田貴　菅野祥子　松村翔子　宮崎真央　鎌田みずほ　水原のぞみ
発行部数	3000部
配布場所	市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

特集

里山再生プロジェクト 学校の森を手入れして 市民が楽しめる里山を取り戻す

名取市ゆりが丘に所在する学校法人尚絅学院（以下尚絅学院）は、約20万㎡の山林に囲まれています。かつて森は生活の場として利用されてきましたが、近年は手入れをする人が減り、維持管理が課題となっていました。地域の人や子どもたちが、安心して散策や山遊びができる環境を作ろうと、学校、NPO、学生や市民ボランティアが連携して行う「里山再生プロジェクト」を紹介します。

大学の森を市民が楽しめる森にしたい

学校法人
尚絅学院
学院長
佐々木公明（ささき こうめい）さん

尚絅学院大学
環境構想学科
准教授
鳥羽妙（とば たえ）さん

×

森づくりを通じて自然を大切にする人づくりをしたい

NPO法人
水守の郷・七ヶ宿
理事長
海藤節生（かいどう せつお）さん

×

森作りの安全をサポートしたい

仙台市
森林アドバイザーの会

×

学業を実践につなげたい

尚絅学院大学
大学生

連絡先　●学校法人尚絅学院経営管理部総務課　TEL 022-381-3332
HP http://ap.shokei.jp/effort/satoyama.html
●NPO 法人水守の郷・七ヶ宿　TEL 0224-37-2171
●仙台市森林アドバイザーの会　〒980-9811 仙台市青葉区一番町4丁目1－3
仙台市市民活動サポートセンター内レターケース2番 FAX 022-268-4042

尚絅の森で手作業を通じて生まれる集いの場

毎月第2土曜日は、「里山再生プロジェクト」の定例活動の日です。キャンパスを囲む尚絅の森に学校関係者、学生、NPO、地域住民など毎回15～20人が集まり、茂りすぎたつる植物を撤去したり、歩道を整備したりしています。誰でも参加でき、ノコギリを持つのが初めてという人には専門家が道具の使い方から教えてくれます。尚絅学院大学の環境構想学科で学ぶ学生は「自分の手で森が変わっていくのを実感する」と森への愛着を話します。講義を担当する鳥羽妙さんは「森は大学の講義で学んだことを実践し、経験を積むことができる場です」と、共に汗を流します。

学生や一般の人が森に入る前には、森の現状を調査し手入れの計画を立てる必要があります。NPO法人水守の郷・七ヶ宿の海藤節生さんは、刈田郡七ヶ宿で、森を舞台に体験学習を通じた環境保全教育に取り組んでいます。プロジェクトでは、山林維持管理の知識を活かし、鳥羽さんと光や風が入る健康な森になるよう手入れの計画を立てます。危険な枯れ木をチェーンソーなどであらかじめ伐採するのは、仙台市森林アドバイザーの会。森林作業を専門に学んだボランティアの団体で、森林を健全に保つための活動をしています。プロジェクトのコンセプトは、「森でコミュニケーションしよう」。多様な人が集い、自然を楽しむ場になっています。

再生に必要だったのは、多様な人との関わり

尚絅学院大学のキャンパスは1989年、仙台市青葉区より現在地の名取市ゆりが丘に移転しました。かつて尚絅の森は近隣住民の生活の場でした。人々は共同体として助け合い、森で伐採した木材を焼いて炭を作り燃料にしたり、きのこや山菜で食卓を彩ったり。多種多様な生きものや植物が見られました。しかし近年、高齢化、宅地開発が進む中で、里山を維持していた地域共同体が次第になくなりました。尚絅の森はつる植物が生い茂り光や風の入らない森になったことで、みるみる生態系のバランスを崩し、生物の多様性が失われつつありました。

学院長の佐々木公明さんはこれまで、学生・生徒たちのアイデンティティを育む必須授業「尚絅学」のなかで、学内にどのような動植物がいるのかを教え、「自然との共生」を説いてきました。自然との関わり方として、教育だけではなく、地域にも森を開き活用してもらおうと、2016年4月にこの再生プロジェクトを立ち上げました。誰でも参加できるよう工夫し、森づくりを通じた参加者同士のコミュニケーションを大切にしています。海藤さんも環境教育の立場から、「手で触れ、ゆっくりと自然に関わり、大切にする考え方を学んで欲しい」と活動に寄り添い、交流促進に気を配ります。仙台市森林アドバイザーの会は、プロジェクトをインターネットで知り参加。多様な人たちが関わる「里山再生」に共感し、手作業の安全のために必要な、機械を使った下準備の作業を買って出るなど、多くの人が森に入ることができる環境作りに力を尽くします。

地域の公共財としての森を育てる

5年計画でスタートしたプロジェクトは、今年で3年目を迎え、それぞれの立場で森に関わる人が増えてきました。佐々木さんは「地域の人たちが関心をよせてくれて活気づいてきた」と成果を実感。遊歩道の整備やピザ窯作り、ハイキングや植物・昆虫観察会など、地域の人たちとアイディアを膨らませます。楽しみながら多くの人が関わることができる里山づくりが続きます。　（取材・文　鈴木美紀）

お役立ち本

プロボノ
-新しい社会貢献　新しい働き方-
著者:嵯峨生馬　出版:勁草書房

ボランティアとは、「自発性」と「無償性」によって支えられる活動です。その中でも、社会人が自らの専門的な資格や知識を生かして行うボランティア活動を「プロボノ」といいます。この本は、高い専門性による新しい社会貢献が、NPOやコミュニティー発展の鍵を握ることになることを予感させ、期待させてくれます。

コトハジメ

環境問題に興味・関心がある方へ、「第23回会員と市民のつどい MELONフェスタ」開催！

ゴミの減量、水質や里山の環境保全活動をする団体のブース、学生サークルのPRコーナーがあります。手作りお菓子や飲み物もあり、どなたでも無料で参加できるイベントです。
日時:9月29日(土)13:30～16:00　会場:仙台市シルバーセンター 7階研究室1
主催・問い合せ先:公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)
〒981-0933　仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
TEL 022-276-5118　FAX 022-219-5713
Mail melon@miyagi.jpn.org　HP http://www.melon.or.jp/melon/

ここチェック

子どもたちの生きる力を育む
認定NPO法人冒険あそび場・せんだい・みやぎネットワーク

木登りしたり、金槌やのこぎりでものづくりをしたり、火を使ったり。遊びは身体や考える力を育み、仲間との絆も深めます。何より、子どもに生きる喜びをもたらします。認定NPO法人冒険あそび場・せんだい・みやぎネットワークは、様々な類似団体と連携し2003年から「遊び場」づくりに取り組んでいます。遊び場は指定管理している海岸公園冒険広場を含め県内に9箇所。スケジュールはホームページにて。
問い合せ　TEL&FAX　022-264-0667
HP　http://www.bouken-asobiba-net.com/

▲ 若林区「海岸公園冒険広場」にて

初心者大歓迎！ 料理と仲間づくり

―市民ライター　小松敏明―

NPO「男の台所」は、男性を対象にした料理教室を企画する団体です。スタッフは栄養士の資格を持つ講師と修了生の約10人。活動場所は太白区富沢市民センター調理実習室です。「現在受講の応募が少なく休講中ですが、ぜひ再開させたい」と、3回生で現事務局長の碓氷哲史さんは参加者を心待ちにしています。9か月間で20回の講座があり、初回につくるのはおにぎり。碓氷さんは「炊き方ひとつでご飯がこんなに美味しくなるものかと感激した」と振り返ります。受講生はご飯を炊くことも、包丁を持つことも初めての方がほとんど。修了する頃には、自分で出汁をとり家族や来客にも料理をふるまえる腕前になります。

「定年退職後は、奥さんを台所から解放したい」。2003年、活動を立ち上げた初代代表の思いです。「もしも奥さんが倒れたら…」と心配する人、「老後の楽しみを見つけたい」と趣味を探す人など、遠くは角田市からも仲間が集いました。

修了生の方々は料理教室以外でも顔を合わせるようになりました。今年は休講中の料理教室の代わりに団体の畑で野菜づくりに取り組んでいます。副代表の高山力男さんは「育てた野菜は料理教室で使いたい」と笑顔で話します。料理に夢中な高山さんと碓氷さんの姿が実に印象的で、文字通り同じ釜の飯を食う仲間との交流は何より至極の時間なのだと感じました。

▲ 全員がお揃いのエプロンで、一体感も高まります。

■連絡先
NPO「男の台所」富沢教室　事務局
碓氷 哲史
TEL　022-308-6668